

ローム ミュージック フェスティバル2022
**ROHM
MUSIC
FESTIVAL**
2022 in TOKYO

Rohm Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション



2022.10/1^土 紀尾井ホール

主催：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
共催：ローム株式会社



Program

A.ドヴォルザーク
A.Dvořák

ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.81, B.155
Piano Quintet in A Major Op.81, B.155

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・タント
I Allegro ma non tanto

第2楽章 ドゥムカ、アンダンテ・コン・モート
II Dumka: Andante con moto

第3楽章 スケルツォ(フリアント)、モルト・ヴィヴァーチェ
III Scherzo (Furiant): Molto vivace

第4楽章 フィナーレ、アレグロ
IV Finale: Allegro

植村 太郎／瀧村 依里(ヴァイオリン)、田原 綾子(ヴィオラ)、佐藤 晴真(チェロ)、吉田 友昭(ピアノ)

～休憩～

E.グリーク
E.Grieg

組曲「ホルベアの時代より」Op.40
Suite “Fra Holbergs Tid” Op.40

第1曲 プレリユード
I Prelude

第2曲 サラバンド
II Sarabande

第3曲 ガヴォット～ミュゼット
III Gavotte - Musette

第4曲 アリア(エア)
IV Air

第5曲 リゴードン
V Rigaudon

A.ピアソラ(L.デシヤトニコフ編)
A.Piazzolla (arr. L.Desyatnikov)

ブエノスアイレスの四季
Las Cuatro Estaciones Porteñas

ブエノスアイレスの春
Primavera Porteña 独奏:小川 恭子

ブエノスアイレスの夏
Verano Porteño 独奏:周防 亮介

ブエノスアイレスの秋
Otoño Porteño 独奏:黒川 侑

ブエノスアイレスの冬
Invierno Porteño 独奏:尾池 亜美

植村 太郎(コンサートマスター)

尾池 亜美／小川 恭子／北川 千紗／黒川 侑／周防 亮介／瀧村 依里／谷口 いづみ／中島 麻(ヴァイオリン)

金本 洋子／鈴木 るか／田原 綾子(ヴィオラ)、奥田 なな子／上村 文乃／佐藤 晴真(チェロ)

高橋 洋太／松隈 崇宏(コントラバス)

企画:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

制作プロデューズ:善積 俊夫、新井 鷗子 制作:株式会社 1002

オンライン ライブ/アーカイブ配信:カーテンコール

ごあいさつ

この度はローム ミュージック フェスティバル 2022 in TOKYO にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して豊かな文化をつくることを目的にさまざまな音楽文化支援活動を継続的に実施しています。特に奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、音楽を学ぶ若い人たちを支援する事業に力を入れてきました。

そしてこのような事業を通じて関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の皆様は国内外で活躍されています。

このフェスティバルでは「ローム ミュージック フレンズ」というつながりが生み出す、豪華共演をお届けします。

素晴らしい音楽家たちによる音楽との出会いをぜひお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

ローム株式会社

Program note

「ピアノ五重奏曲」の作曲家

A.ドヴォルザーク(1841～1904)

ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.81, B.155

穏やかな情趣のピアノに導かれ、チェロが味わい深い調べを紡ぐ。思わずほほ緩むオープニングだ。ほどなくピアノ五重奏ならではの構えの大きな響きがホールを満たす。哀愁も情熱も舞う。

故郷ボヘミア(現在のチェコ中西部)やスラヴ文化圏の旋法を創作に生かしたドヴォルザークの音楽は、初めて聴いたとしても摩訶不思議な懐かしさを感じさせる。ハプスブルク帝国領内に住むく才能ある若手作曲家に奨学金を授与する審査会>に応募してきた“ブラハの音楽教師”ドヴォルザークの作品群を、誰よりも高く評価したのが審査員のひとりブラームスだった、という史実も私たちを喜ばせる。

表情豊かな音楽ゆえ、ドヴォルザークの「自画像」とも評されるピアノ五重奏曲は1887年の夏から秋にかけて書かれ、翌年1月にプラハの伝統ある室内楽シリーズで初演された。作曲家このとき46歳。同時期にヴァイオリンの名曲「4つのロマンティックな小品」Op.75も書かれた。交響曲の歩みで見ると、ロンドンのフィルハーモニック協会から委嘱、そのロンドンの由緒あるセントジェームズホールで初演された劇的な第7番二短調Op.70(1885年)の2年後。アレグレット・グラツィオーソのワルツ風第3楽章も変奏の筆致も胸をうつ第8番ト長調Op.88(1889年)の2年前だ。ドヴォルザーク芸術はひとつの佳境を迎えていた。

ソナタ形式の第1楽章から美しい。第2楽章は、ウクライナ起源の哀悼歌から育まれたスラヴ舞曲「ドゥムカ」(複数形がドゥムキー)に基づく。ピアノが清らかに、寂しげに歌い出し、それをヴァイオラが慈しむかのように受け継ぎ、ヴァイオリンが寄り添った瞬間、私たちは至福を味わう。楽の音の粒子が嬉々として飛び交う第3楽章は、テンポの速いボヘミア舞曲「フリアント」だ。そして音楽への内なる尽きせぬ想いがついに溢れ出たかのような第4楽章へ。

ドヴォルザーク

第1楽章:アレグロ・マ・ノン・タント　イ長調

第2楽章:ドゥムカ、アンダンテ・コン・モート　嬰へ短調

第3楽章:スケルツォ(フリアント)、モルト・ヴィヴァーチェ　イ長調

第4楽章:フィナーレ、アレグロ　イ長調

グリーク

E.グリーグ(1843～1907)

組曲「ホルベアの時代より」Op.40

心躍る楽想も凛とした響きもお任せあれ。北欧ノルウェーの「旋律作家」グリーグも舞曲好き。時空を超えた舞いの美学を味わいたい。1884年、母国の歴史的な劇作家ルズヴィ・ホルベア(Ludvig Holberg 1684～1754)の生誕200年を記念して書かれたピアノ組曲がオリジナルだ。ホルベアはデンマークで活躍したノルウェーの作家だが、1884年に生誕地ベルゲンで200年祭が開催されることになり、同じベルゲン出身のグリーグに「祝典曲」が依頼されたのだった。グリーグは無伴奏の合唱曲も書いた。その翌年1885年に、グリーグはピアノ組曲を弦楽オーケストラに編曲、これが「彼の「名刺」曲のひとつとなる。ちなみに、ホルベアをドイツ語読みし「ホルベルク組曲」と呼ばれた時代もあった。バロック音楽やウィーン古典派の流儀に通じていた19世紀ノルウェー国民楽派の匠グリーグは、組曲を書くにあたり、18世紀前半のホルベア時代に想いを寄せ、そのころ愛されていた宮廷舞曲のフォーマットを生かす。ところどころ自分の美学を添えながら。

グリーグ

第1曲:プレリュード　アレグロ・ヴィヴァーチェ　ト長調

　　祝祭の「開幕」はリズムカルに。バロック舞曲はプレリュードで始まる。組曲中、最も名高い音楽。

第2曲:サラバンド　アンダンテ　ト長調

　　サラバンドはスペイン起源のゆったりとした舞曲。チェロのソロ、アンサンブルにもスポットが当たる。

第3曲:ガヴォット～ミュゼット　アレグレット～ポコ・ビウ・モツ　ト長調、ハ長調

　　雅なガヴォットも中間部を彩るミュゼットもフランス起源の舞曲。ミュゼットは、17世紀から18世紀にフランス上流階級の間で流行った、ふいご式バグパイプの名でもある。農民の踊りの象徴だった。

第4曲:アリア(エア)　アンダンテ・レリジョーソ　ト短調

　　アリア(エア)は、プレリュード(前奏曲)とともにバロック組曲の定番。グリーグは、レリジョーソ=宗教的な、敬けんな、と記した。

第5曲:リゴードン　アレグロ・コン・プリオ　ト長調、ト短調

　　フランス南部プロヴァンス起源の舞曲リゴードンが組曲を締めくくる。跳躍音程や付点のリズムを交えたりゴードンは、近代のラヴェル、クライスラーも愛した。ソロの妙技も際立つグリーグの「リゴードン」は、あっという間に終わる。

「ブエノスアイレス」の作曲家

A.ピアソラ(1921～1992)／L.デシャトニコフ編

ブエノスアイレスの四季

伝統的なアルゼンチン・タンゴの世界からもクラシックからも異端児と言われつつ己を貫き、結果として「ピアソラ」という新たなジャンルを創造した音楽の申し子。それが1921年3月、イタリア移民の三世としてアルゼンチンに生まれ、1992年に首都ブエノスアイレスで亡くなったアストル・ピアソラである。幼少期から10代半ばまでニューヨークに滞在、その後もこの大都会と何かと関わりをもった。

昨年生誕100年、今年没後20年。ピアソラのメモリアル・イヤーに、トップアーティストの「響宴」で人気曲を聴く。その前にピアソラの歩みを少し。

蛇腹を動かして筐体(きょうたい)に空気を送り、ボタン式の鍵盤を操作して音を出す楽器バンドネオンの名手だった。

若き日のピアソラは、母国アルゼンチンを代表する作曲家ヒナステラに師事したが、幼少のころから親しんできたタンゴを創作の基盤とするのか、12音技法などを織り込んだ近現代音楽の作曲家を目指すのか、迷いがあった。ヒナステラのもとで勉強していた際、ストラヴィンスキーの「春の祭典」の総譜に夢中になったとも語っている。いっぽう、大都会の喧騒や夜の静寂(しじま)を洒脱な感覚で描いたジョージ・ガーシュウインの音楽も意識していた。

1950年代の前半に、2台のバンドネオンを交えた大管弦楽曲「シンフォニア・ブエノスアイレス」を発表。素晴らしい音楽にも関わらず、“神聖なクラシックのオーケストラに、タンゴの楽器バンドネオンを入れるとは何事か”との理不尽な批判を浴びてしまう。

悩めるピアソラは1954年、33歳の年にパリへ赴き、多くの作曲家・演奏家に手を差し伸べた音楽教師ナディア・ブーランジェに師事。彼女から「クラシックの曲もよく書けているが、タンゴこそあなたの原点。タンゴを棄ててはいけけない」とアドヴァイスされる。

帰国後、ピアソラはバンドネオンを交えた八重奏団、五重奏団キンテート(クインテットのスペイン語)を結成する。キンテートの編成はバンドネオン、ヴァイオリン、ピアノ、エレキギター、コントラバスだったが、エレキギターを入れたことにより、今度は伝統的なアルゼンチン・タンゴを愛する向きからタンゴの破壊者と非難されてしまう。

人気曲「ブエノスアイレスの四季」は、1965年から1970年にかけて、その五重奏団キンテートのために書かれた。

最初から「四季」が意識されていた訳ではなかった。

1965年に劇音楽として、まず「夏」が単独で作曲され、4年後に「秋」が誕生。そのときピアソラは、ヴィヴァルディにならない「四季」すべてを書く構想を明らかにする。

その後1969年の暮れから1970年にかけてブエノスアイレスのレジーナ劇場でロングラン公演を行った際に、かねてからの予告通り「冬」と「春」が披露される。

演奏順に決まりはない。

今宵は、ヴィヴァルディの「四季」を意識したヴァイオリン独奏と弦楽合奏によるヴァージョンで味わう。編曲したのは、1955年ウクライナ出身の作曲家レオニード・デシャトニコフ。

デシャトニコフは、友人のヴァイオリニスト、ギドン・クレーメル(1947～)のリクエストに応じ、彼の妖しくも烈しい演奏を生かすべく、オリジナルの五重奏に鮮烈なアレンジを施した。原作ピアソラ、脚色デシャトニコフ、主演クレーメルというわけである。ここから近代の演奏史が始まった。今「ブエノスアイレスの四季」の解釈は百花繚乱といえる。

ピアソラ

「ブエノスアイレスの春」　ブエノスアイレスの賑わいを映し出すかのような推進性、躍動感が素晴らしい。前衛音楽への憧れも叙情美も添えられた。曲の終わりにご注目を。

「ブエノスアイレスの夏」　ピアソラのヨーロッパ音楽への眼差しと、何とんでも現代音楽を創らねば、との想いが交錯。ヴィヴァルディの「夏」を仲立ちとしたソロと合奏の交歓も興奮を誘う。

「ブエノスアイレスの秋」　ラテンの打楽器ギロを思わせる音色、リズムが絶妙。チェロのソロも主役を演じる。ストラヴィンスキーやバルトークへの接近はデシャトニコフの趣味か。

「ブエノスアイレスの冬」　クラシカルな様式美に息づく、ピアソラならではのノスタルジックな音楽。バロックの技法カノンも添えられた。

デシャトニコフ

[奥田 佳道]

Profile



植村 太郎 (ヴァイオリン) Taro Uemura

2007～2010年度奨学生
2004、2006年小澤征爾音楽塾 塾生

三重県桑名市出身。名古屋市立菊里高等学校、桐朋学園大学を首席卒業後、ローム ミュージック ファンデーション、岡田文化財団に助成を受け、ドイツ・ハノーファー国立音楽演劇大学、ジュネーブ音楽院(カルテットコース)、ベルリン・ハンスアイスラー音楽大学大学院にて研鑽を積んだ。第74回日本音楽コンクールにて第1位、同時に黒柳賞、レウカディア賞、鷺見賞、岩谷賞(聴衆賞)を受賞。ソリストとしてブラハ交響楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団など共演。現在、東京藝術大学准教授、藝大フィルハーモニア管弦楽団ソロコンサートマスター、ジュニア・アカデミー講師、名古屋フィルハーモニー交響楽団客演コンサートマスター、フコク生命パートナー・アーティスト、愛知県立芸術大学非常勤講師を務める。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより貸与中のT.パレストリエリ(1760年製)。



尾池 亜美 (ヴァイオリン) Ami Oike

2011、2012年度奨学生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学を安宅賞、同声会賞、アカンサス賞を受賞し卒業。ローザンヌ高等音楽院修士課程修了。英国王立北音楽院、グラーツ芸術大学にて研鑽を積む。日本音楽コンクール、RNCM マンチェスター国際ヴァイオリン・コンクール優勝、カール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクール第2位ほか受賞多数。スイス、イギリス、セルビア、中国など各国でリサイタルを開催。2020年度より東京藝術大学講師。Ensemble FOVE、紀尾井ホール室内管弦楽団、アマティ・カルテット、Zephyrusピアノ五重奏団メンバー。



小川 恭子 (ヴァイオリン) Kyoko Ogawa

2017、2018年度奨学生

日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)、全部門で最も印象的な演奏に贈られる増沢賞他すべての副賞(レウカディア賞、黒柳賞、鷺見賞、E.ナカミチ賞)受賞。ノヴォシビルスク国際コンクール、スウェーデン国際デュオコンクール、日本モーツァルト音楽コンクール、ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール各優勝、シュポア国際コンクール第2位他受賞多数。秋山和慶、高関健各氏等の指揮のもと国内外のオーケストラと共演する他、さまざまな音楽祭やプロジェクトに出演。桐朋学園大学を首席で卒業後、修士修了を経てウィーン国立音楽大学にて研鑽を積む。文京楽器の協力によりイギリスのBear's International SocietyからG.Cappaを貸与されている。

©Shigeto Imura



北川 千紗 (ヴァイオリン) Chisa Kitagawa

2017、2018年度奨学生

2020年第89回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)含む4つの特別賞を受賞。2021年スピヴァコフ国際ヴァイオリン・コンクール(ロシア)第2位。このほか2009年より11の国際音楽コンクールとオーディションで優勝、グランプリを獲得。国内や欧州を中心に音楽活動を行いソリストとして多数のオーケストラと共演を重ねている。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学卒業。桐朋学園大学大学院修士課程を修了し現在同学園大学院大学在籍中。一般財団法人ITOよりGuadagnini1779を貸与されている。

©Kei Uesugi



黒川 侑 (ヴァイオリン) Yu Kurokawa

2016、2017年度奨学生

第75回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)他3つの特別賞を受賞。第6回仙台国際音楽コンクールで聴衆賞受賞。スイス・ロマン管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団など国内外の主要オーケストラと共演を重ねる他、リサイタル、室内楽でも好評を博している。青山音楽賞、出光音楽賞など演奏活動への受賞も多数。「クラシック倶楽部」「題名のない音楽会」等メディア出演も多い。桐朋学園大学院大学、エコー・ノルマル音楽院高等課程修了。京都市立芸術大学非常勤講師。使用楽器は、個人より貸与されているGuarneri del Gesu(1742)。

©Ikuro Hiramatsu



周防 亮介 (ヴァイオリン) Ryosuke Suho

2014、2015年度奨学生

2016年ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール入賞および審査員特別賞受賞をはじめ、日本音楽コンクールやダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリン・コンクールなど、国内外の数々のコンクールで優勝や入賞の実績を持つ。2015年「第25回出光音楽賞」、2016年「第25回青山音楽新人賞」を受賞。12歳で京都市交響楽団との共演を皮切りに、パリ管弦楽団やシュトゥットガルト室内管弦楽団、NHK交響楽団など、数多くの国内外オーケストラと共演。東京音楽大学アーティスト・ディプロマコースを修了し、現在は江副記念リクルート財団奨学生としてメニューイン国際音楽アカデミーにて研鑽を積む。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されている、1678年製ニコロ・アマティ。

©TAKUMI JUN



瀧村 依里 (ヴァイオリン) Eri Takimura

2011、2012年度奨学生

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学を首席卒業、同大学院修了後、ウィーン国立音楽大学大学院を修了。2005年第3回東京音楽コンクール第1位、2008年第77回日本音楽コンクール第1位など受賞多数。これまでに東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団など国内主要オーケストラと共演、各地でソロリサイタルを開催するほか、室内楽の分野でも積極的な演奏活動を行っている。現在、読売日本交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者。平成25年度神戸市文化奨励賞、平成26年度坂井時忠音楽賞受賞。



谷口 いづみ (ヴァイオリン) Izumi Taniguchi

学生フェスティバル2006出演者

愛知県出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業。京都市立芸術大学音楽学部を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程を修了。国内の主要オーケストラの客演でさまざまなコンサートへ出演するほか、ミュージカル「レ・ミゼラブル」「West Side Story」「シスター・アクト」「マリー・アントワネット」等の演奏も務める。さまざまなアーティストや劇伴のレコーディング、ライブサポート、TV出演など、クラシックからポップスまでジャンルレスに幅広く活動中。



中島 麻 (ヴァイオリン) Asa Nakajima

2005～2007年度奨学生

2002～2004、2008年小澤征爾音楽塾 塾生

NYにて4歳よりヴァイオリンを始め、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学卒業。オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学修士課程を首席修了。徳永二男、イゴル・オジムの各氏に師事。2005年オーストリア・メニューイン記念音楽財団賞1位ほか国内外のコンクール受賞多数。ソリストとしては、ドイツ・イェナフィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルク交響楽団、キエフ国立フィルハーモニー交響楽団ほか国内外のオーケストラと共演。現在、イルミナートフィルハーモニーオーケストラソロ・コンサートマスター、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア(元トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ)コンサートマスター。



金本 洋子 (ヴィオラ) Yoko Kanamoto

1996年度セミナー生

神戸女学院大学音楽学部卒業後、ヴィオラに転向し、京都市交響楽団に入団。ヴィオラを故西岡正臣氏・深井碩章氏に師事。渡独し、ロイス・ランツベルク氏(バンベルク交響楽団ソロ首席)のもとで研鑽を積む。オーケストラに所属しながら、積極的に室内楽やソロのコンサートに取り組んでいる。弦楽出世世Yo-Yo-Ju→アンサンブル弦伍楼、アンサンブルヴァイラ、2x2弦楽四重奏団メンバー。アルテアチェンバーオーケストラ主宰。K'classic代表。京都・新京極 誓願寺でVOWS concertを定期的に企画し、好評を得ている。

[ローム ミュージック フレンズ]

奨学生、在外研究生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽在外研究生、セミナー生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー 受講生
学生フェスティバル出演者…京都・国際音楽学生フェスティバル出演者、小澤征爾音楽塾 塾生

Profile



鈴木 るか (ヴィオラ) Ruka Suzuki
1993年度セミナー生

3歳よりヴァイオリンを始める。8歳のとき、桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」に入塾。同大学を卒業後、2年間研究科へ進みヴァイオリンに転向。在学中、オーケストラメンバーとして、NYカーネギーホール、フランス・エヴィアン国際音楽祭に出演、1992年よりセイジ・オザワ松本フェスティバル(旧称サイトウ・キネン・フェスティバル松本)に出演、同年、ボストン・ニューイングランド音楽院との交流演奏会に室内楽で出演、1993年スイス・プロネーで開催されたローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナーで、元北ドイツ放送交響楽団の深井碩章氏に師事。1995年カザルスホールにおけるヴィオラスペースの公開マスタークラスでキム・カシュカジャンに師事。2005年上野で開催された東京のオペラの森に、2010年NYカーネギーホール、2011年北京公演をそれぞれサイトウ・キネン・オーケストラメンバーとして出演。現在、フリーで活動。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のゲストトップ、他多数オーケストラ、室内楽に出演中。これまでにヴァイオリンを、村山信吉、江藤俊哉、江藤アンジェラ各氏に、ヴァイオリンを、店村真積氏に師事する。



田原 綾子 (ヴィオラ) Ayako Tahara
2015、2016年度奨学生

東京音楽コンクール弦楽部門第1位および聴衆賞、ルーマニア国際音楽コンクール全部門グランプリを受賞。読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団等と共演、室内楽奏者としても国内外の著名アーティストと多数共演する他、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。桐朋学園大学、桐朋学園大学院大学、エコー・ノルマル音楽院を修了、現在はデトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタイン氏に師事。第23回ホテルオーケストラ音楽賞受賞。公益財団法人サントリー芸術財団より Paolo Antonio Testore を貸与されている。



奥田 なな子 (チェロ) Nanako Okuda
2006～2009年度奨学生

東京藝術大学附属音楽高等学校を卒業と同時に文化庁在外派遣員としてフライブルク音楽大学に留学。ベルリン芸術大学に移籍後ディプロマを最優秀で取得。同大学院ソリストコースにて研鑽を積み、国家演奏家資格を取得し帰国。2006年バーデン＝バーデンフィルハーモニー管弦楽団と共演。2008年青山音楽記念館にてデビューリサイタル。第1回秋吉台コンクール弦楽部門最高位受賞。2006年～2009年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。2011～2013年兵庫芸術文化センター管弦楽団に在籍。地域創造公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト。ソロから室内楽、オーケストラまで幅広い演奏活動を行なっている。



上村 文乃 (チェロ) Ayano Kamimura
2015、2017年度奨学生

東京音楽コンクール、日本音楽コンクール第2位、トレヴィーゾ市国際コンクール第1位など入賞歴多数。リサイタル、室内楽、オーケストラ共演や国内外の音楽祭へ参加の他、バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとしても活躍中。モダン楽器にとどまらず、ピリオド楽器を用いた演奏法にも取り組み、双方で活躍の場を広げている。2022年第23回ホテルオーケストラ音楽賞受賞。第2回インディアナポリス国際バロック・コンクール優勝。



佐藤 晴真 (チェロ) Haruma Sato
2017、2018年度奨学生

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。2018年にはヴィルト・ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞など受賞多数。バイエルン放送交響楽団をはじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。2021年11月には、名門ドイツ・グラモフォンよりセカンドアルバム『SOUVENIR～ドビュッシー＆フランク作品集』をリリース。第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞受賞。令和3年度文化庁長官表彰。第32回日本製鉄音楽賞受賞。現在、ベルリン芸術大学在学中。使用楽器は宗次コレクション貸与のE. ロッカ 1903年。



高橋 洋太 (コントラバス) Yota Takahashi
2005、2006年小澤征爾音楽塾 塾生

桐朋学園大学卒業後、同研究科修了と同時に2006年東京都交響楽団に入団。2005年青森市民文化顕彰受賞。セイジ・オザワ松本フェスティバル、霧島国際音楽祭、東京・春・音楽祭はじめ各地の音楽祭に度々出演している。ソロ、室内楽の演奏のほか、雑誌『Tarzan』にて、音楽家としての身体のメンテナンスを紹介するなど、その活動は多岐に渡る。2022年自身初のソロアルバム「Histoire」をリリースし好評発売中。



松隈 崇宏 (コントラバス) Takahiro Matsukuma
2011、2012年小澤征爾音楽塾 塾生

東京音楽大学卒業。ドイツにて文屋充徳氏のマスタークラスを受講。2010～2012年、小澤征爾音楽塾のオペラプロジェクト等の各公演に参加。アフィニス夏の音楽祭2015、ローム ミュージック フェスティバル2017などの音楽祭に出演。これまでに、時津りか、永島義男、渡辺玲雄、ハインリッヒ・ブラウンの各氏に師事。現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団フォアシュピーラー。また、コントラバスアンサンブルグループ「Bass Shock ! (仮)」のメンバーとしても活動中。



吉田 友昭 (ピアノ) Tomoaki Yoshida
2011～2013年度奨学生

東京藝術大学を経て20歳時にヨーロッパへ移住。パリ国立高等音楽院を一等賞の成績で卒業後、ローマ聖チェチーリア国立音楽院、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学を修了。第79回日本音楽コンクール第1位、マリア・カラス国際グランプリ、ホセ・イトゥルビ国際ピアノコンクール、マリア・カナルス国際音楽コンクール、ハエン国際ピアノコンクール、シドニー国際ピアノコンクール他の国際コンクールで優勝・入賞。スペイン、イタリア、オランダ、ドイツにて演奏ツアーを行う。フランスに5年間、イタリアに4年間、オーストリアに3年間居住した後、2015年に日本に帰国。現在は東京音楽大学専任講師を務める。

[ローム ミュージック フレンズ] (五十音順)

奨学生、在外研究生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽在外研究生、セミナー生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー 受講生
学生フェスティバル出演者…京都・国際音楽学生フェスティバル出演者、小澤征爾音楽塾 塾生

過去のローム ミュージック フェスティバル

京都公演



東京公演



公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは
音楽文化の普及と発展のためにさまざまな活動をしています。

音楽文化の発展 若い音楽家育成のための事業を多く実施しています。

事業の中で関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は、1991年設立時よりこれまでで4,732人になります。

奨学生	525人	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。
音楽在外研究生	64人	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。
音楽セミナー受講生	333人	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。
ローム ミュージック セミナー受講生	8人	世界で活躍するローム ミュージック フレンズによる音楽家育成セミナー。
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	2,635人	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。
小澤征爾音楽塾 塾生	1,422人	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。

※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しません。(2022年9月現在)

奨学援助 認定式・報告会を実施し、給付中また給付後すぐの奨学生によるスカラシップ コンサートも開催しています。



©佐々木卓男

ローム ミュージック セミナー

2019年～宮田大・チェロクラスを実施しています。



©佐々木卓男

京都・国際音楽学生フェスティバル



©佐々木卓男

小澤征爾音楽塾

若手音楽家の育成を目的とした小澤征爾音楽塾の各種公演を共催しています。また、小学生を対象とした「子どものためのオペラ」を共催しています。



©大塚通治

音楽文化の普及 クラシック音楽普及のための事業を多く実施、支援しています。

新国立劇場
高校生のための
オペラ鑑賞教室への助成



©寺司正彦、提供 新国立劇場

日本フィル
夏休みコンサートへの助成



ローム ミュージック ファンデーション
SPLコード復刻CD集、
解説DVDの発行



映像配信コンサート (Kyoto X Classics)
京都の名所からローム ミュージック フレンズが
音楽をお届けしています。



ローム ミュージック
チャンネルの視聴はこちら

その他にもさまざまな事業で音楽文化の普及と発展を目指しています。

Webサイトのご案内 <https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

ローム ミュージック ファンデーション

検索